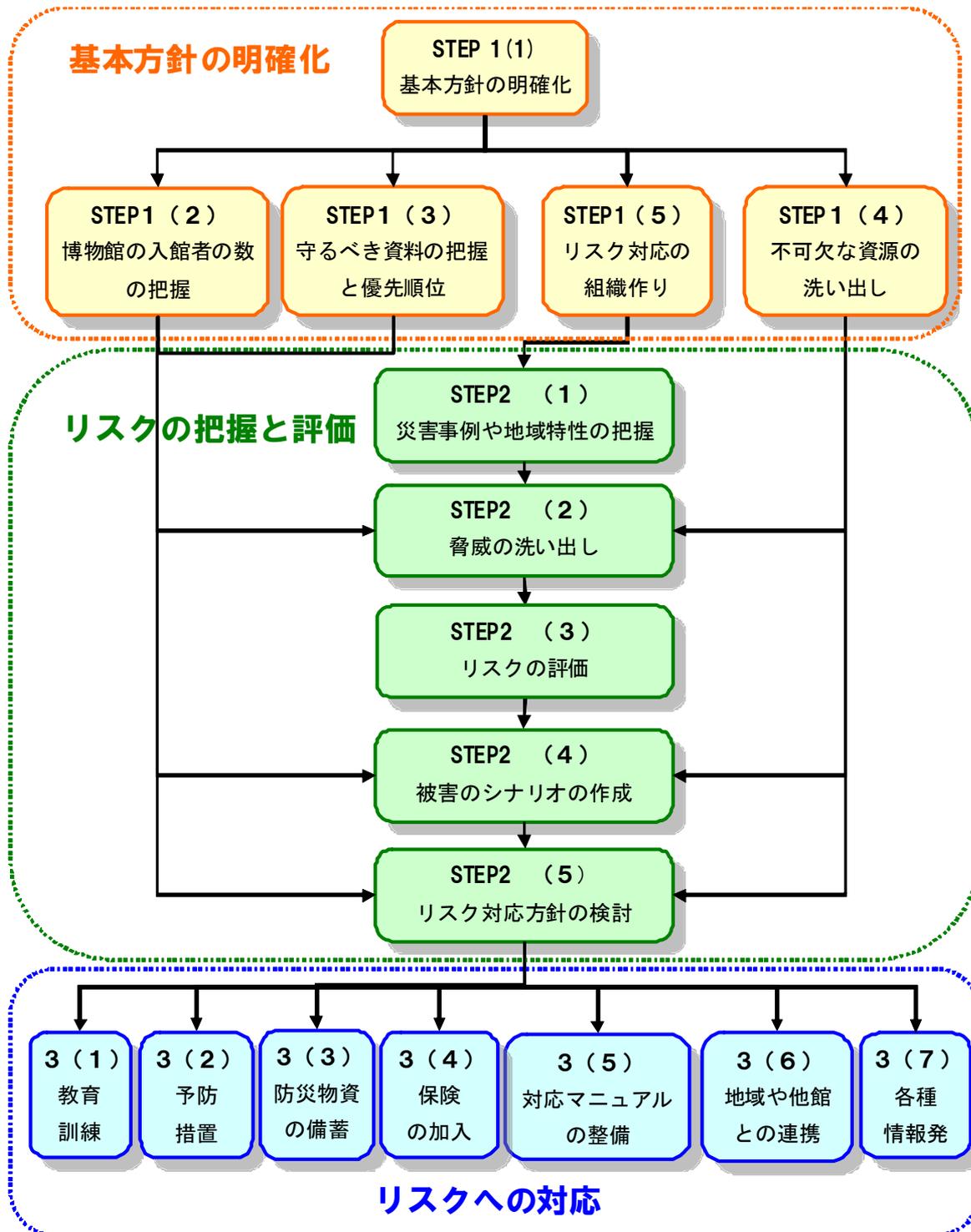


第Ⅲ部 リスクマネジメントの実践

第Ⅲ部では以下のようにリスクマネジメントの手順を整理しています。具体的な検討を行えるように、第Ⅶ部帳票編では帳票を多く紹介していますので、そのままコピーをして検討に用いたり、各館の実情に合わせて改編を加え、リスクマネジメントに活用してください。



STEP1

基本方針の明確化

● 目的

このステップでは博物館において、何のためにリスクマネジメントに取り組むのか、誰が中心になって取り組むのかを明確にします。

● 実践

- (1) 基本方針を明確にします
- (2) 博物館の来館者の数を把握します
- (3) 守るべき資料の把握と優先順位づけをします
- (4) 博物館の運営に不可欠な資源を洗い出します
- (5) リスク対応の組織をつくります

(1) 基本方針を明確にします

博物館が地震災害や風水害に遭遇した場合、博物館において守るべきものを基本方針に示し、明確にします。人命尊重や地域共生の視点も重要です。

- 人の生命と健康を守ります
来館者（帰宅困難者、災害時要援護者についても考慮する）、職員、地域住民
- 展示物、展示生物を守ります
展示物の破損、展示生物の死傷など
- 地域のアイデンティティを守ります
博物館は地域の心のよりどころ、アイデンティティ
- 周辺の自然環境、住民の生活環境にも配慮します
大気汚染、水質汚濁など
- 博物館の運営をしっかりと行います
物理的、財務上、社会信用



あなたの博物館のリスクマネジメントの基本方針を書きましょう

(2) 博物館の来館者の数を把握します

博物館の来館者の数および職員数を把握し、発災した場合、何人の来館者を何人の職員で避難誘導等の対応をする必要があるのか整理します。この数字は対策を考える上で基本の数字となり、どのくらいの来館者に対して対応をしなければならないのかの「規模感」をつかむことができます。以下の例のように、概数を把握してみましょう。

また避難するときに支援が必要な来館者（子供、高齢者、外国人、視覚障害者、聴覚障害者、車椅子の方等）の数も把握しましょう。どのような支援が必要で、どのように支援を行うかを検討しておきましょう。



表 1 来館者数と職員・ボランティア数の把握（例）

		来館者				職員 (人)	ボランティ ア (人)
		一般来館 者 (人)	子供 (人)	高齢者 (人)	外国人 (人)		
ピーク 時	館全体						
	展示室 A						
	展示室 B						
	収蔵庫						
	レストラン						
	ホール						
	売店						
平時	館全体						
	展示室 A						
	展示室 B						
	収蔵庫						
	レストラン						
	ホール						
	売店						
夜間	館全体						
	展示室 A						
	展示室 B						
	収蔵庫						
	レストラン						
	ホール						
	売店						

(3) 守るべき資料の把握と優先順位づけをします

展示資料（物品や生物）の保護を行う上では優先順位をつけておくことも大切です。災害時において、展示資料の取捨選択を迫られる場面も想定されます。

①各区画ごとの資料を把握します。→ひな形1

各区画ごとにどのような資料がどこにあるかを把握します。

資料の種類や数をすべて把握することが現実的でない場合、主なものをまずは把握します。

各資料の特徴（材質、生物であれば餌等）などは備考に書くと良いでしょう。

表2 (例1) 美術館の例

区画	場所	番号	資料名	備考1 (材質・餌等)	備考2 (セキュリティ)
3F 展示室 A	入り口左	1	「花」〇〇作	和紙	警備会社に接続
...

表3 (例2) 動物園の例

区画	場所	番号	資料名	備考1 (材質・餌等)	備考2 (セキュリティ)
アフリカ ゾーン	2-A	1	ライオン 2 頭 (ハナ、サブ)	餌は生肉のみ	夜間、檻は警備会 社に接続
...

②優先して保護する必要がある資料を選びます。→ひな形1【優先順位】

優先して保護するための判断基準も整理しましょう。

- 判断基準の例

代替がない（少ない等）、修復が出来ない、価値が高い（研究価値、価格等）、他館から借りている、水や温度・湿度に対する耐久性が低い、水質や温度、湿度の変化に弱い生き物

 あなたの博物館で優先保護する資料の基準を書きましょう

③各区画ごとの優先資料リストを作成する→ひな形2

それぞれの区画ごとの優先順位が高い資料のリストを簡潔に用紙にまとめ、緊急時には簡単に閲覧できるようにします。

(4) 博物館の運営に不可欠な資源を洗い出します

博物館を開館させるため、或いは展示品や展示生物を保管するために不可欠な資源を洗い出します。→**ひな形3**

例えば、展示倉庫の空調に高度な IT システムが使用されている場合、一時的な停電でも IT システムがダウンして空調システムが回復できず、資料に被害が及ぶおそれがあります。災害時にこれらの資源を確保できるかどうかを確認し、必要に応じて代替策を持っておく必要があります。

表 4 不可欠な資源の洗い出し (例)

資料の種類	資源 (1次)	資源 (2次)	資源 (関係者)
美術品	空調 (温度・湿度) 紫外線防護 防虫設備	電力・ガス・灯油	IT システム保守業者
動物	空調 (冷房・暖房) 餌 (生・冷凍) 糞尿処理 檻	電力・ガス・灯油 餌の保管庫	IT システム保守業者 餌の納入業者 糞尿処理業者
水生生物	水槽 (海水・淡水) 水質浄化装置 水温調整	補給タンク、海水取水 電力、消毒剤 電力・ガス・灯油	設備メンテナンス会社



(5) リスク対応の組織を作ります**① リスク対応の責任者を定めます。**

リスク対応の責任者を定めておきます。正・副の2名を置き、毎年見直します。
平常時、責任者が中心となって次を実施します。

	災害時の対応体制を定める。
	外部の関係者との連携体制を構築する。
	必要な情報を入手する。リスクの把握と評価を行う。
	評価結果を踏まえ、リスクへの対応を指示する。
	教育・訓練等を実施し、リスクへの対応状況を確認する。
	必要に応じて、リスク対応の見直しの指示、上級管理者への報告・要望を行う。
	館内でイベントを行っている際、主催者が外部機関の場合、予め定めたチェックリストに従って、そのリスク対応能力を確認するとともに、書類に署名を求める。

② 災害発生時の対応体制を決めます

班構成と役割を決めておきます。→ **ひな形 4、ひな形 5**

緊急連絡網を作成し、周知します。夜間、休日に備えて、参集時間や参集手段も記入します。→

ひな形 6

表 5 班と役割の例

班名	役割
通報連絡班	来館者への情報提供、消防等への連絡通報、職員の連絡・安否確認、関係機関との連絡調整、被害状況の収集とりまとめ、広報対応
避難班	来館者の避難誘導
消火班	初期消火、消防等への協力
救護班	負傷者対応、消防等の協力
設備班	電気、エレベーター、ガス等安全措置
資料班	資料や作品の緊急避難対応
庶務班	職員の食料等のロジ対応、会計対応等

③ 参集基準

勤務時間外の職員等の参集基準を定めます。参集手段と参集にかかる時間も整理します。災害時は平時と異なり、公共交通機関はもちろんのこと、自動車も使用できない可能性が高いでしょう。徒歩、自転車（バイク）で誰がいつ確実に参集できるかを把握しておきます。→ **ひな形 7**

④ 関係者の連絡先を確認します

災害時に連携して活動したり、情報を入手したりする関係者を洗い出します。相互が担うべき役割について予め協議し、電話が不通になった場合どうするかも確認しておきましょう。

関係者の連絡先を整理しリストを作成しておきます。連絡先リストは、事務所内に張り出したり、携行カードにして職員が携行したりします。

→ **ひな形 8**

⑤災害時における博物館の社会的役割の把握します

災害時における博物館の社会的役割を把握しておきます。例えば市町村から広域避難場所に指定されている、都道府県内の文化財を一時保管する施設に指定されている等が考えられます。博物館の所在する市町村の地域防災計画等を確認しましょう。

 災害時におけるあなたの博物館の地域の中での役割を書きましょう

⑥閉館の基準と方法

災害発生時には判断に迷っているうちに時間が経過し、結果的に大惨事に巻き込まれる可能性があります。そのため、あらかじめ閉館する判断基準および開館中に退避する判断基準とその判断者を定めます。閉館する場合はその周知を行う必要があります。

また、開館中に災害が発生した場合、チケットの払い戻しについても検討する必要があります。一律チケットの払い戻しを行う、要請のあった来館者だけ払い戻しを行う、優待券を配る等対応をあらかじめ検討しておきましょう。

表 6 閉館および退避の基準（例）

基準（例）	対応
震度5弱以上	職員が自動参集
津波危険地域で強い揺れを感じた（棚から本が落下等）	2階以上に退避
気象警報発令	閉館する（来館者に帰宅いただく）、保全のための職員が参集
台風暴風域	翌日を休館にする
雷鳴がした	屋外施設から屋内に退避させる
交通機関が麻痺し来館者が帰れなくなるおそれがある場合	閉館する（来館者に帰宅いただく）
施設が土砂災害や浸水などに遭うおそれがある場合	閉館する（来館者に帰宅いただく）、保全のための職員が参集

あなたの博物館の閉館の基準および開館中の退避の基準を書きましょう。→ ひな形9



STEP2

リスクの把握と評価

● 目的

災害時に博物館で何が起こりそうか（脅威）を知っておくことが大切であり、リスクマネジメントの第一歩です。このステップではさらに、洗い出した脅威ごとに何らかの対策を講じる必要があるかどうかを評価します。

● 実践

- (1) 災害事例や地域特性を把握する
- (2) 博物館が抱える「脅威」を洗い出します
- (3) リスクを評価します
- (4) 被害シナリオを作成します
- (5) リスク対応方針を検討します

(1) 災害事例や地域特性を把握する。

①地域の災害特性を調べる

あなたの地域の災害特性を調べてみましょう。地域の災害特性としては地震動、液状化、津波、洪水、土砂災害などが考えられます。地方公共団体の防災部署への問い合わせやホームページで公開されている情報をもとに以下を調べてみましょう。



地域防災計画
地震被害想定結果
ハザードマップ、土砂災害危険箇所、地盤特性
隣接する施設（例：危険物施設）
過去の災害記録

②博物館の災害特性を調べます

施設の耐震性等自館の災害特性を調べる際は、設計・施工会社に問い合わせたり、調査会社に依頼するとよいでしょう。水害対策状況や停電時の影響も調べます。

③災害記録を調べます

自館の災害記録、ヒヤリハットを様式を決めて記入・保管し、復習しましょう。→**ひな形 10**
また国内外の博物館の災害事例を調べ、共有すると良いでしょう。災害事例は本書第IV部地震対策のポイント(4)被災事例集や第V部風水害対策のポイント(4)被災事例集にも載っていますし、参考文献ページにも紹介してあります。

(2) 博物館が抱える「脅威」を洗い出します

(1) の地域特性や災害事例の分析の結果から、人の生命と健康、周辺の自然環境、住民の生活環境、展示物、展示生物、博物館の運営に被害を与える可能性のあるもの(脅威)を洗い出します。全ての博物館に共通する脅威もあれば、博物館の種類によって異なる脅威もあります。潜在的な脅威を幅広く把握し、災害時のチェックポイントや初動対応を決めておけば、被害の拡大防止につながります。→ **ひな形 11**

表 7 脅威の洗い出し(例)

区分	脅威の例	該当
立地環境	<ul style="list-style-type: none"> ・津波来襲の危険箇所 ・土砂災害の危険箇所 ・洪水・冠水の危険箇所 ・隣接する危険性物質貯蔵施設 ・隣接する木造建物密集地域 	共通 共通 共通 共通 共通
損壊のおそれがある 構造物	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性が確認されていない建物 ・重量のある吊り物 ・安定性の悪い展示物 ・広いガラス壁面 ・柵や塀 ・大型の水槽、配管 	共通 共通 共通 共通 共通 水族館
人が転倒したり閉じ 込められたりするお それがある設備	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーター ・エスカレーター、急な階段 ・高所 ・参加体験型展示 ・プラネタリウム 	共通 共通 共通 科学館 科学館
火災を拡大させる可 燃物	<ul style="list-style-type: none"> ・暖房用の灯油やLPガス ・消毒用のアルコール ・酸素ボンベ 	共通 動物園 水族館
危険性物質・生物	<ul style="list-style-type: none"> ・反応性の高い薬品 ・毒劇物(消毒剤、ホルマリン等) ・猛獣 ・生態系を乱す恐れのある外来植物 	科学館 水族館 動物園 植物園
大量貯蔵物	<ul style="list-style-type: none"> ・大型の水槽や配管 ・冷凍施設のアンモニア 	水族館 水族館
価値の高い資料	<ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財 ・希少な生物 	歴史・美術館 動物園・水族 館・植物園

(3) リスクを評価します

各リスクごとに発生確率、持続期間と被害の大きさを見積ります。それらを踏まえてリスクの評価を行いましょう。ごく大雑把で構いません。またそれぞれのリスクの対策状況もあわせて整理しておきましょう。優先して対策を講じるべきリスクを抽出します。→**ひな形 12**

表 8 リスクの評価（ある美術館の例）

リスクの カテゴリー	発生確率	持続期間 (長・ 中・短)	影響の大き さ (大・中・小)	リスク の対策 状況	リスクの評 価 (高・中・低)	
自然 災害	地震災 害 (津波 を含 む)	・首都直下地震 30年以内の発生確率は70%	余震をい れると 中期	大	耐震 工事中	高
	風水害	・台風は年間3個程度上陸 ・2008年大規模な豪雨災害発生	短期	中	対策 なし	中
	火山災 害	・噴火警報が出ている最も近い火山まで170キロ離れている。	長期	大	対策 なし	低
	火災	・昨年はボヤが1件発生(原因は雷による分電盤の発火) ・2008年年末から年明けにかけて周辺施設や住居で不審火が相次いでいる。	中～長期	大	見回り 強化	高
産業・ 技術的 災害	停電	・2008年は雷による停電が年間3件発生している。	中期	大	バック アップ 電源の 整備中	高
人的 災害	盗難	・2008年は盗難未遂が一回発生。 ・同市内の別な美術館で絵画盗難事件が発生している	犯人が捕 まらな かった 場合 長期	大	なし	高
	来館者 騒動	・2008年、夜間の開館時間に酔客が暴れる事件が2件発生 ・2007年来館者同士の喧嘩が1件発生	短期	中	職員へ の研修	中
	異臭 騒ぎ	・開館以来1件も発生していない	短期	小	なし	低

(4) 被害シナリオを作成します

災害事例や地域特性を踏まえ、災害発生時の被害シナリオを作成します。リスクの把握と評価の結果に基づき博物館内の弱点を把握します。教育訓練を通して、緊急時対応上の課題を把握します。想定されるシナリオを数多く作成することが大切であり、災害対策のチェックリストになります。職員全員にシナリオ作りに参加してもらおうと良いでしょう。こうした被害シナリオが顕在化しないよう、予防対策を講じ、災害対応マニュアルを準備しましょう。被害シナリオごとに現在の対策状況を整理します。→**ひな形 13**

表 9 被害シナリオ例

被害の種類	被害シナリオ例	該当
人の生命と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吊り物が落下、来館者が下敷きになり死亡 ・ 館内で火災発生、逃げ遅れた来館者が焼死 ・ 津波、来館者避難、非常口が暗く将棋倒し ・ 裏山が土砂崩れ、来館者が生き埋めに ・ 地震でエレベーターが停止、来館者が閉じ込められる ・ 大雨警報中、帰宅が遅れた来館者の自動車が冠水 ・ 地震、修学旅行生が帰宅困難、衣食住の世話できず ・ 爆破予告があり、爆弾をしかけられる ・ 不審者が来館者に切りつける ・ 館内のレストランで食中毒発生 ・ 参加体験型展示が損壊、体験中の来館者が挟まれ死亡 ・ 倉庫で CO2 消火設備を作動、中にいた職員が窒息死 ・ 大風で野外展示の作品が飛び、人に当たる ・ 野外で鑑賞中、落雷が来館者を直撃 ・ 来館者が飼育していた動物に触れ、サルモネラに感染 	共通 共通 共通 共通 共通 共通 共通 共通 共通 共通 科学館 歴史・美術館 野外展示 野外展示 動物園
周辺の自然環境、住民の生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 損壊した古い建物からアスベストが飛散 ・ 来館者が来館後に周辺で大声で騒ぐ ・ 消毒剤タンク、液状化で配管破断、海洋に漏洩 ・ 猛獣の檻が損壊、住宅地に逃げ込む ・ 外で飼育していた鳥に鳥インフルエンザが発生、周囲の野生の鳥へ広がる ・ 外来植物の種子が飛散、周囲の生態系を乱す 	共通 共通 水族館 動物園 動物園 植物園
展示物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示資料が棚から落下、損壊 ・ 地下倉庫が浸水、資料が水浸し ・ 火災発生、資料が焼失 ・ 火災によりスプリンクラー作動、資料が水浸し ・ 長期間断水停電、空調システム、資料にカビ ・ 警備システム損傷、展示物が盗難される ・ 来館者が展示物に手を触れ、損傷させる 	歴史・美術館 歴史・美術館 歴史・美術館 歴史・美術館 歴史・美術館 歴史・美術館 歴史・美術館

STEP2 (4) 被害シナリオを作成します (5) リスク対応の方針を検討します

被害の種類	被害シナリオ例	該当
展示生物	<ul style="list-style-type: none"> ・落雷、システム故障し循環ポンプ停止、展示生物が死ぬ ・停電により冷凍庫の餌が腐敗 ・広域地震により1週間、餌が確保できず ・飼育員が参集できず、展示生物が死ぬ ・野生の動物が園内に入り、展示生物に病気をうつす ・毒入りの餌を不審者に与えられ、生物が死ぬ ・動物が柵を超え、園外へと脱走する ・植物の花を来館者がつんで帰る 	水族館 水族館・動物園 水族館・動物園 水族館・動物園 動物園 動物園 動物園 植物園
博物館の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が館に避難、立ち退きに6ヶ月を要し、開館できず ・ホームページに殺害予告 ・来館アンケート回答者の個人情報パソコンから漏れる ・冠水、地下室の電源破損、開館に3ヶ月を要する ・災害発生後に建物倒壊寸前との風評被害 ・水槽から漏水、ヒーターが異常高温になり火災発生 ・借用中展示物が破損、損害保険掛けておらず、多額の賠償金を支払い 	共通 共通 共通 共通 共通 水族館 歴史・美術館

(5) リスク対応の方針を検討します

それぞれの災害ごとに被害シナリオを作成し、リスク対応の方針を書きましょう。→ **ひな形 13**

表 10 リスク対応の方針 (例)

地震のとき		
被害の種類	被害シナリオ	対応の方針
人の生命と健康	吊り物が落下、来館者が下敷きになり死亡	吊りものの固定
	津波、来館者避難、非常口が暗く将棋倒し	非常口付近の見晴らしを良くし、明るい非常灯を設置
周辺の自然環境、住民の生活環境	猛獣の檻が損壊、住宅地に逃げ込む	猛獣の檻の近くにある倒れそうな木は切り倒す 猛獣脱出対応訓練を行う
展示生物	飼育員が参集できず、展示生物が死ぬ	徒歩で30分以内に参集できる職員を緊急対応要員として任命
	停電により冷凍庫の餌が腐敗	バックアップ電源を確保する
博物館の運営	冠水、地下室の電源破損、開館に3ヶ月を要する	冠水防止の工事を行う
	地域住民が避難	あらかじめ開放する場所、提供できるサービスを明確にしておく

STEP3

リスクへの対応

● 目的

このステップでは投入できる人材やコストも考慮して実際にリスクへの対応を実施します。

● 実践

- (1) 教育・訓練を実施します
- (2) 予防措置を行います
- (3) 防災物資を備蓄します
- (4) 保険に加入します
- (5) 対応マニュアルを整備します
- (6) 地域や他館との連携・ネットワークを築きます
- (7) 各種情報発信を行う体制を整えます

(1) 教育・訓練を実施します

教育・訓練は、正職員のみが受ければよい訳ではなく、現場にいるボランティアなど全員を対象に実施することが大切です。消防署や警察署などと協力し、訓練を企画、準備します。訓練では消火設備や防災設備の確認等も行うと良いでしょう。訓練を実施した後は必ず反省会を行いましょう。改善点があれば、対応マニュアル等に反映します。→[ひな形 14](#)

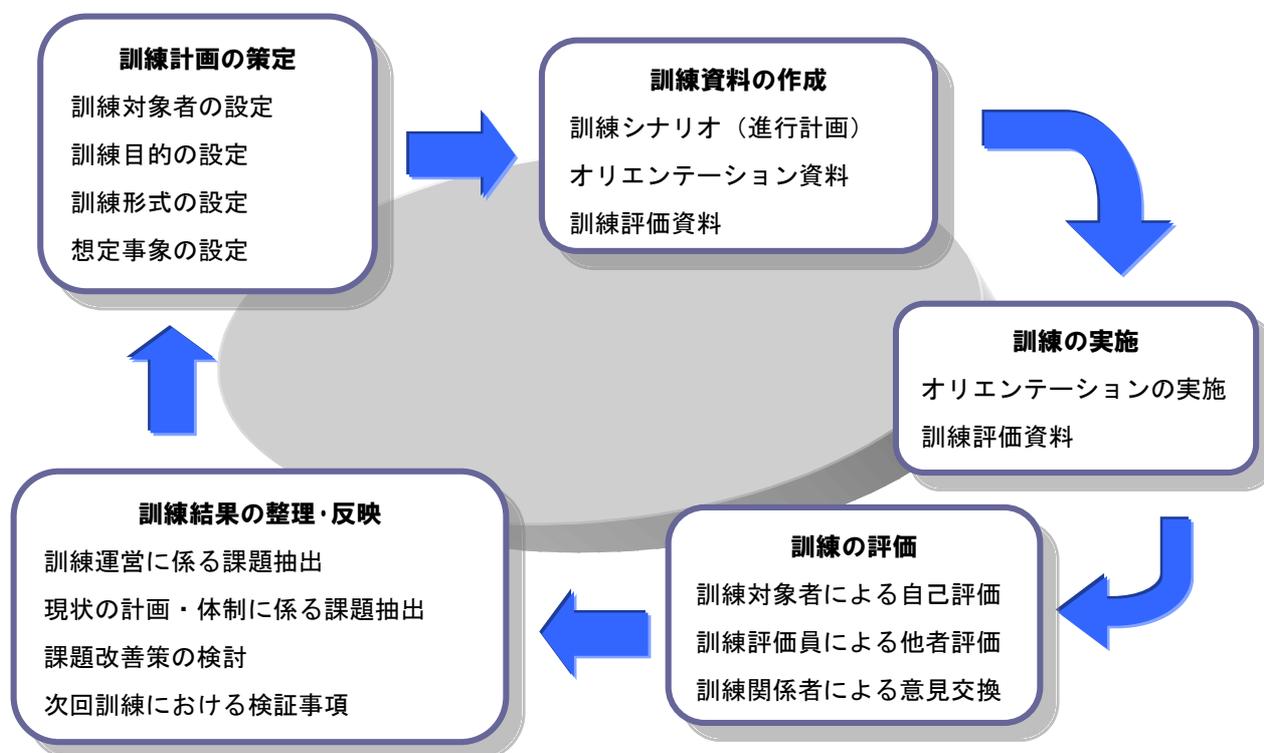


図 1 訓練実施の流れ

(2) 予防措置を行います

各リスクへの対応を事前対策として行いましょう。地震、水害の各予防措置のポイントは本書後半 第Ⅳ部 地震対策のポイント、第Ⅴ部風水害対策のポイントにも載っていますので参考として下さい。

(3) 防災物資を備蓄します

必要最低限の防災物資を備蓄しておき、その場所もわかるようにしておきましょう。

表 11 備蓄すると良い物資の例

区 分	内 容		
非常備蓄品	<input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 予備電池 <input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/> 防寒具 <input type="checkbox"/> 運動靴 <input type="checkbox"/> ポリ袋 <input type="checkbox"/> 軍手	<input type="checkbox"/> 拡声器 <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 笛
救急医薬品	<input type="checkbox"/> 殺菌消毒剤 <input type="checkbox"/> 解熱鎮痛剤 <input type="checkbox"/> 包帯 <input type="checkbox"/> ガーゼ	<input type="checkbox"/> 脱脂綿 <input type="checkbox"/> 三角巾 <input type="checkbox"/> ハサミ <input type="checkbox"/> 絆創膏	<input type="checkbox"/> ピンセット <input type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> 人工呼吸用マスク
救出救助資器材	<input type="checkbox"/> ジャッキ <input type="checkbox"/> バール <input type="checkbox"/> のこぎり <input type="checkbox"/> スコップ	<input type="checkbox"/> はしご <input type="checkbox"/> 鉄パイプ <input type="checkbox"/> ロープ（避難誘導用トラ ロープ）	<input type="checkbox"/> 担架 <input type="checkbox"/> AED <input type="checkbox"/> 鉄線ハサミ <input type="checkbox"/> ハンマー
生活資器材	<input type="checkbox"/> 水（1日3ℓ/人） <input type="checkbox"/> 食料（3日分/人） <input type="checkbox"/> カセットコンロ	<input type="checkbox"/> 簡易トイレと消毒剤 <input type="checkbox"/> ポリタンク <input type="checkbox"/> 紙食器	<input type="checkbox"/> 浄水器 <input type="checkbox"/> 発電機
資料作品対応資 器材（収蔵庫）	<input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> ダンボール 200 個 単位 <input type="checkbox"/> エアキャップ <input type="checkbox"/> 薄葉紙 <input type="checkbox"/> 真綿 <input type="checkbox"/> 冷凍庫 <input type="checkbox"/> 扇風機	<input type="checkbox"/> 持ち運び用の担架 <input type="checkbox"/> 紐 <input type="checkbox"/> ガムテープ <input type="checkbox"/> カッターナイフ <input type="checkbox"/> ラベル <input type="checkbox"/> 速乾性ペン <input type="checkbox"/> ペーパータオル <input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/> さらし布 <input type="checkbox"/> 新聞紙多数 <input type="checkbox"/> 冷凍庫 <input type="checkbox"/> 扇風機 <input type="checkbox"/> 発泡スチロール箱 <input type="checkbox"/> 冷却剤 <input type="checkbox"/> ぞうきん多数 <input type="checkbox"/> トレイ
資料作品対応資 器材（展示室）	<input type="checkbox"/> デジカメ <input type="checkbox"/> 筆記具 <input type="checkbox"/> 拡声器	<input type="checkbox"/> 簡易トイレと消毒剤 <input type="checkbox"/> ポリタンク <input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> 浄水器 <input type="checkbox"/> 発電機 <input type="checkbox"/> 予備電池
消火・警備資器材	<input type="checkbox"/> 消火器	<input type="checkbox"/> トランシーバー	
水防資器材	<input type="checkbox"/> 土嚢袋 <input type="checkbox"/> 止水板	<input type="checkbox"/> 防水シート <input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 消毒薬



(4) 保険に加入します

必要に応じて損害保険や共済に加入します。保険金が下りる条件を確認すること、費用対効果を見積もることが大切です。

表 12 博物館が加入できる損害保険・共済の例

職員	傷害保険、医療保険、生命保険、年金	
ボランティア	ボランティア活動保険	
来館者	博物館来館者傷害保険 博物館保険（日本博物館協会）	
建築物	施設賠償責任保険 博物館保険（日本博物館協会）	
博物館所有自動車	自動車保険料 自動車損害賠償責任保険料	
資料	収蔵庫にある資料	—
	展示室にある資料	展示品動産総合保険
	資料を他館に貸し出すとき	オールリスクを担保する損害保険 地震保険（海外への貸し出しのみ）
	資料を他館から借りているとき	オールリスクを担保する損害保険（運送保険を含む） 動産総合保険 地震保険（海外から借り受けのみ）

(5) 対応マニュアルを整備します

① 災害対策マニュアルの策定

法律で作成することが定められている消防計画のほか、各館独自の災害対策マニュアルを作成します。本書第Ⅳ部 地震対策のポイント、第Ⅴ部 風水害対策のポイントを参照してください。

災害対策マニュアル目次例

1. 本マニュアルの目的と対象範囲
 - (ア) 目的
 - (イ) 本マニュアルの対象とする博物館関係者（職員、ボランティア、関係機関を記述）
 - (ウ) 本マニュアルの対象とするリスク
2. 応急対応方針
3. 災害対策における組織体制
 - (ア) 組織体制
 - (イ) 各班の役割と対応
4. 避難誘導
5. 各区画ごとの資料の優先順位と応急対応
6. 開館・閉館の基準
7. 災害時における〇〇博物館の地域の中の役割
8. 資料編
 - (ア) 避難口・避難経路図
 - (イ) 災害対応物品配置図（避難誘導物品、救命物品、資料対応物品等）
 - (ウ) 緊急連絡網（平日、夜間）
 - (エ) 各種関係機関連絡先
 - (オ) 各種アナウンス例

②防災携行カードの作成

防災携行カードを作成・配布し、職員やボランティアの方々に携行してもらおうと良いでしょう。

→ **ひな形 15**

(6) 地域や他館との連携・ネットワークを築きます

このステップの目的は博物館の外に支援体制を確立することです。災害発生時には博物館の外からの支援体制が非常に重要です。大災害に対しては、一館だけで対応しきれず、また災害時に円滑な連携を行うためには日ごろからネットワークを築く必要があります。

ネットワークについては第Ⅵ部 博物館における災害時ネットワーク を参照してください。

(7) 各種情報発信を行う体制を整えます**① 発信する情報**

一刻も早く第一報を行い、その後情報更新を行います。社会的信用を守り、来館者や地域住民、国民が求める情報を発信しましょう。

	休館の状況、開館の目途
	価値の高い展示物や展示生物の被害状況、その保護のためにとった措置
	地域住民等へ協力依頼すること
	博物館や地域社会の復旧・復興に向けた取組み

② 発信する方法と担当者

表 13 のように情報発信の方法と担当者、発信時期等をあらかじめ整理しておきましょう。

→ **ひな形 16**

表 13 広報の手段とその方法 (例)

手段	内容	担当者	時期・タイミング
ホームページ	一般来館者向けの内容		
チラシ	一般来館者向けの内容		
最寄り駅ポスター	一般来館者向けの内容		
メール			
メールマガジン			
記者会見			
電話			
FAX			